

[平成23教 内容解説資料]

平成23年度用・図画工作 教科書のご案内

文部科学省検定済教科書
小学校図画工作科用

9	102
	103
図工	302
	303
開隆堂	502
	503

開隆堂出版株式会社

たのしく、学びやすい教科書で、創造する喜びを
味わいながら、豊かな情操を培うことができます。



つくるの
だいすき
かくの
だいすき
そんな
気持ち
を応援
します

開隆堂

開隆堂「図画工作科」教科書 編集の基本方針

私たちは、図画工作教育をとおして、21世紀を担う子どもたちに、どのようなメッセージを伝えることができるでしょうか。新学習指導要領に対応しながら、図画工作の新たな課題や目標、内容や方法を見直しました。私たちは、一人一人の子どもの心を開き、自発的に課題をつかみ、子ども自らが創造活動をたのしむような心を育てる教科書づくりを目指しています。



- ① 大きく掲載した作品で、子どもの意欲を高めます →本冊子 p.3・4
 - ② わかりやすい学習のめあてで、子どもの生きる力を育てます →本冊子 p.5~7
 - ③ 授業の流れを重視した学びやすい紙面構成です →本冊子 p.8~11
 - ④ 基礎・基本から発展的内容まで、子どもの学習意欲に応えます →本冊子 p.12・13
 - ⑤ 造形をとおした言語活動で、コミュニケーション能力が育ちます
→本冊子 p.14・15
 - ⑥ 教科書を使って、鑑賞の授業ができます →本冊子 p.16・17
 - ⑦ 地域や伝統文化に目を向けます →本冊子 p.18
 - ⑧ 発達の段階に配慮しています →本冊子 p.19
 - ⑨ 安全、環境、情報… 今日的な課題に応えます →本冊子 p.20・21
 - ⑩ 使いやすい目次です →本冊子 p.22
- 題材系統表 →本冊子 p.23・24
 - 観点別・編集の特色 →本冊子 p.25~28

大きく掲載した作品で、子どもの意欲を高めます

作家作品や児童作品を大きくすることで、作品の工夫がよくわかります。

●子どもの発達の段階に応じた作品や写真を**大きな図版**で掲載しています。

表紙をめくると迫力ある名作が目飛び込んできます。



▲5・6年下p.2~4「小さな美術館」

●作家からの**メッセージ**を通して、表現することのたのしさを子どもたちに伝えています。

夢を追い続けている作家の姿と作品の魅力にふれることができます。



▲1・2年上p.6・7「ゆめをかたちに」

- 1・2年上 荒井良二(絵本作家)
- 1・2年下 保科晶子(陶芸家)
- 3・4年上 安部泰輔(人形作家)
- 3・4年下 藤井雷(美術家)
- 5・6年上 川内倫子(写真家)
- 5・6年下 ヤノベケンジ(現代美術作家)

●児童作品を**大きく**掲載しました。

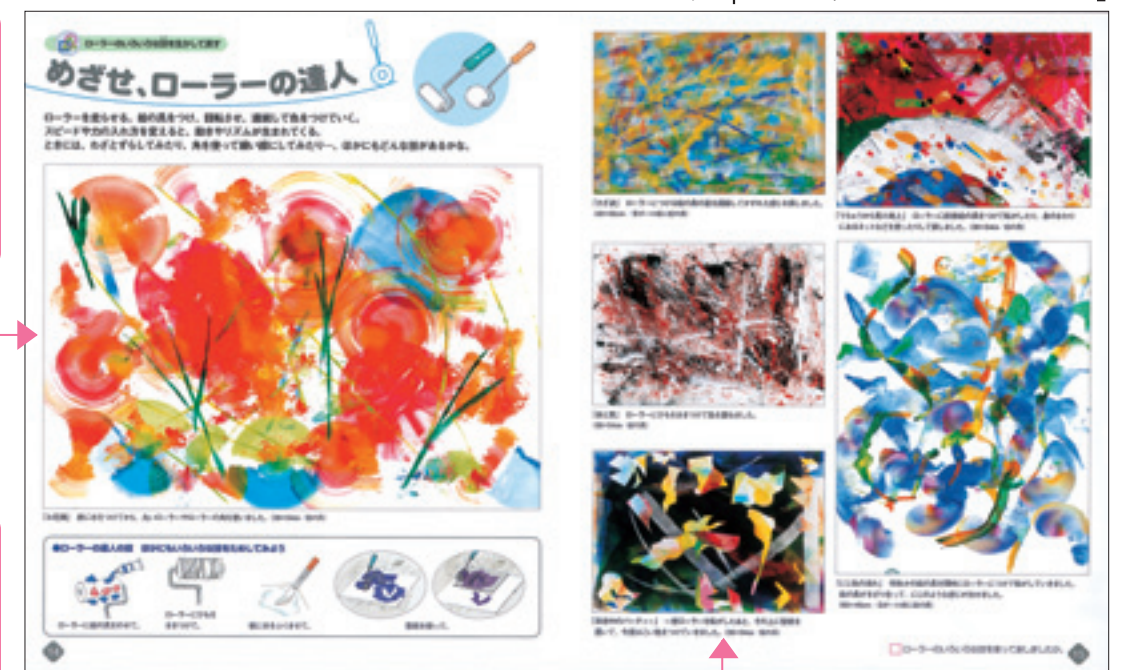


▲3・4年下p.32・33「願いの種から」




▼5・6年上p.14・15「めざせ、ローラーの達人」

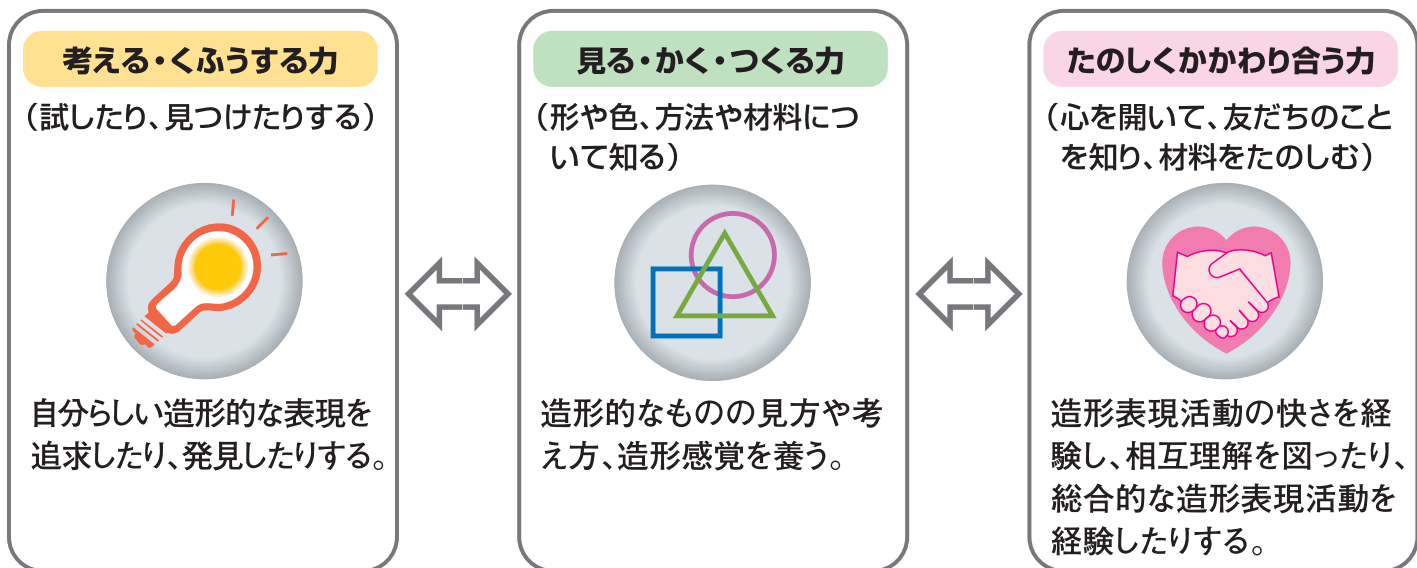
写真を大きく掲載することで、児童作品の細部までよく見え、子どもの表現への意欲や関心を高めます。

表現方法や技法などタイプの違う児童作品を選び、子どもの表現の多様性を尊重しました。



●3つのマークと学習のめあて

図画工作の授業をとおして、子どもたちに教え、育て、培いたい力を3つのめあてとして大きくくり、3種類のマーク(  )で示しました。各題材には、いろいろなめあてがありますが、中心となるめあてをマークとともに示してあります。



※中・高学年では、発達の段階にあわせて「材料体験をする」としました。



▲「新校舎のベランダ」(5・6年下p.10)



は、「考える・くふうする力」(試したり、見つけたりする)ことを大切にしたい題材です。



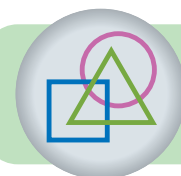
▲3・4年下p.24「まほうの力をもつ時計」

言葉やお話から想ぞうしたことをくふうしてかく

「これでいいかな。」
「もっとこうしたいな。」
自分の考えで表し、くふうし続ける子どもたちの姿を応援します。

光やかげの美しさを見つけて、くふうして思いついた活動をする(5・6年下p.29「おどる光、遊ぶかげ」)

つくったかみテープのつながかたをくふうしてかざる(1・2年下p.15「ゆらゆら うきうき」)



は、「見る・かく・つくる力」(形や色、方法や材料について知る)ことを大切にしたい題材です。

ぬのや手ぶくろなどの組み合わせを生かしてつくる

美しい形や色、確かな技法。子どもたちと表現方法との出会いを演出します。

かんたんなくみを使って、動くおもちゃをつくる(5・6年下p.16・17「動き出すストーリー」)

「自分マーク」をもとにまんがをかく(3・4年上p.30「まんがでゴー!」)



▲3・4年上p.26「くつ下や手ぶくろにまほうをかけると」

授業で大切にしたい「めあて」を「3つのマーク」で示し、「ふりかえり」とあわせて、各題材でどんな力がついたのか確認しながら学ぶことができます。



は、「たのしくかかわり合う力（心を開いて、友だちのことを知り、材料をたのしむ）」ことを大切にしたい題材です。



▲1・2年上 p.21「てでさわってかくのきもちいい!」

てやゆびをつかってかくことをたのしむ

活動をたのしみ、心を開く。そして、いろいろな材料や作品と心を通わせる。そういう活動を通して、友だちと力を合わせ、一人ではできない表現をたのしもう。

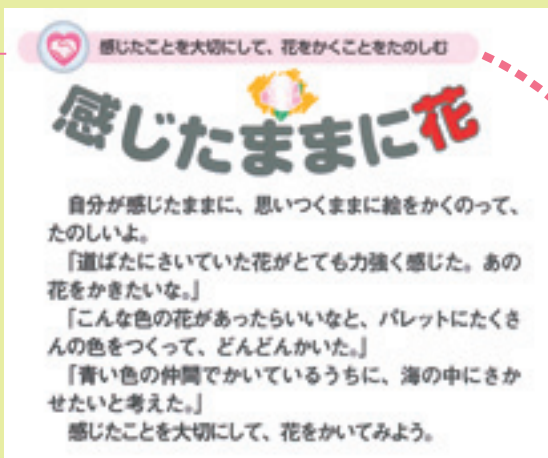
くぎをうったり、木切れをうちつけたりして、**たのしくつくる**
(3・4年上p.24「くぎうちトン」)

材料やつくり方をくふうして、伝えたいことをみんなでつくって**発表し合う**
(5・6年下p.36・37「伝え方をたのしもう」)

学習の「めあて」と「ふりかえり」が対応しています。その題材で学習したことを子どもが「自己評価」する手助けにもなります。



▲5・6年下 p.8・9「感じたままに花」



花の形や色を感じたままにかきましたか。

◎新学習指導要領【共通事項】に対応しています。

材料・用具や場の設定、発想の広げ方や作り方の手立てなど、授業の導入から評価までのポイントがつかめます。

まず、**学習のめあて**を明示しています。

基礎的な技法や用具の使い方、材料についての知識などは**グレー囲み**で示しています。

児童の具体的な発想のプロセスや表し方の工夫は**ブルー囲み**で示しました。「あなたならどうしますか」という問いかけが、児童の新しい発想につながります。

技法など関連するページの情報を**指差しマーク**で示しました。

身のまわりのものを液体ねん土で固めたでこぼこ画面にくふうしてかく

でこぼこ広場に 絵の具が走る

液体ねん土などを使って、ぬのやひもを固めると、でこぼこ、ざらざらした画面ができあがる。 絵の具がかすれたり、にじんたりするけれど、画用紙とはちがった、思いがけない感じがおもしろい。 さあ、何を固めてみようかな。どんな絵をかいてみようかな。

●でこぼこ画面の材料に なりそうなものは…

- ぬの
- かた紙だんボール
- ガーゼ
- ネット
- 紙バンド
- ひも、なわ
- すな
- こんぶ材

・ほかには例があるかな。

【深海の世界】 かた紙だんボールやぬの切れをはってできたでこぼこに、青い絵の具を塗るようにぬったら、海の中のように見えてきました。(45×40cm / だんボールに絵の具)

【星くずの草】 白やピンク色の絵の具のかすれから、たくさんの星を思い浮かべました。(30×45cm / 木の板に絵の具)

【上空から見た心の風景】 白く固まった画面から半島や岩山、波打つ海をイメージして絵の具をぬっていました。(28×44cm / 木の板に絵の具)

【にじの国】 いろいろな色をぬってカラフルでにぎやかな感じを表現しました。(30×40cm / 黄ボール紙に絵の具)

【春夏秋冬】 白いところを部分的にぬり残した。(44×36cm / 木の板に絵の具)

●かおひさんの表し方のくふう あなたならどう表しますか

電動あみごりて板をすきな形に切って、いろいろな材料をはっていった。切った板の残りはもった。

ねえ、どう？ いろいろな材料をはったよ、わたを揉むのが少しむずかしかった。

液体ねん土をはけてぬった。とくに揉んだまわりははいてぬっていった。

次の週、液体ねん土がかわいて、固まっていた。でこぼこ画面に何をかこうかな。

絵の具をまぜて新しい色をつくってみようと思った。固まったわから雪の結晶を想像した。

でこぼこ画面を生かしてかきましたか。

色のつくり方は「リレットコーナー」(42・43ページ)を見てみよう。

注目してほしいポイントは、**虫眼鏡マーク**で拡大して見やすくなっています。

学校や子どもの実態に応じて、板材や黄ボール紙など材料を選んだり、表したいことに合わせて、さまざまな形に切ったりなど、表現の多様性を示しました。

ふりかえりで学んだことが確認できます。

子どものつぶやきの中に発想の手立てや、技法のヒントが含まれています。

▲5・6上p.24・25「でこぼこ広場に絵の具が走る」

工作に表す

A表現(2)

まず、**学習のめあて**を明示しています。

子どもたちの表現イメージを豊かにふくらませる魅力あふれる題材名と主文を設定しました。

展示の参考例となる写真を掲載しています。

基礎的な技法や用具の使い方、材料についての知識などは**グレー囲み**で示しています。

▲3・4年上p.11「カラフルねん土のお店へようこそ」

生活に生かす作品を掲載し、子どもの意欲を喚起します。

造形遊び

A表現(1)

ぬのの やわらかさを生かして たのしく かつどうする

ほわほわ むくむく

ぎゅっと だいたら、いい気持ち。ひろげて、つつんで、ほわん ほわん。むすんで、ねじって、まるめたよ。

▲1・2年下p.13「ほわほわむくむく」

ふりかえりで学んだことを確認できます。

友だちといっしょに活動するたのしさを伝えています。

吹きだしの中に、子どもの気づきや発見が含まれています。

後片付けも大切な学習活動であることを示しています。

基礎・基本から発展的内容まで、 子どもの学習意欲に応えます

基礎・基本を重視するとともに、学んだことを活用し、子どもの「もっとこうしたい」という探究心に応えるような工夫をしています。

●基礎・基本を習得できるように、イラストや写真を使ってわかりやすく示しました。



▲1・2年上 p.12「みてみて、いっぱいつくったよ」

▲5・6年上p.12「糸のこのドライブ」

▲3・4年上p.8
「絵の具と水の
ハーモニー」

▲3・4年上p.22
「ようこそ、キラキラ
のせかいへ」

●材料や用具の使い方を資料ページで、全学年にわたってわかりやすく示しました。



▲3・4年上p.41～43「道具箱・パレットコーナー」

●子どものさらなる探究心に応える発展的な内容も示しています。



▲5・6年上p.27「くるくる回して」



▲3・4年下p.9「絵の具で遊んで『自分いろいろみ』」



▲1・2年下p.10「マグネット・マスコット」

●図画工作で学んだことが生活に生かされている様子を
示しています。



▲5・6年上 裏表紙「つながる『造形』」



▲1・2年上p.31「ともだちをつくろう!」

造形をととした言語活動で、コミュニケーション能力が育ちます

いろいろな題材の中で、相互理解・人間理解につながる活動を提案しました。

自分の作品にこめた思いをカードに書いて伝えています。

●コミュニケーションや言語活動を重視した題材を多く設定しています。

友だちの作品にメッセージを書いて応えています。

家族や友だちに絵手紙で伝えています。



▲1・2年下p.26「ひらいて見てね、わたしのえてがみ」

◀5・6年上p.11「ねん土に自分の気持ちをこめて」

●総合的な扱いの題材を設定し、共同で作り出すことによって、コミュニケーションの力が育ちます。



▲5・6年下p.36・37「伝え方をたのしもう」

鑑賞活動の中で、見つけたことを話し合います。



児童がどんなところに気がついたか具体的に読み取ることができます。



▲5・6年上p.20「見つけたことを話してみよう」

は、さまざまな場面で、児童の鑑賞の力が発揮されている様子を示しています。

材料とのコミュニケーション



▲3・4年下 p.31「だんボール、切って、つないで」



▲1・2年下 p.24「ちぎゅうからのおくりもので」

▼5・6年上 p.11「ねん土に自分の気持ちをこめて」



活動の中で友だちとコミュニケーション

かんしやう
鑑賞

は、学校の授業の中で十分にできる取り組みやすい新しい鑑賞題材を示しています。

話し合いながらいろいろなさわりごちの違いを見つける鑑賞の題材です。



友だちと形や色の感じ方の違いを味わう鑑賞の題材です。



▲3・4年下p.17「カードで味わう形・色」

▲3・4年上p.23「タッチ、キャッチ、さわりごち」

◎新学習指導要領の「鑑賞の重視」に対応しています。

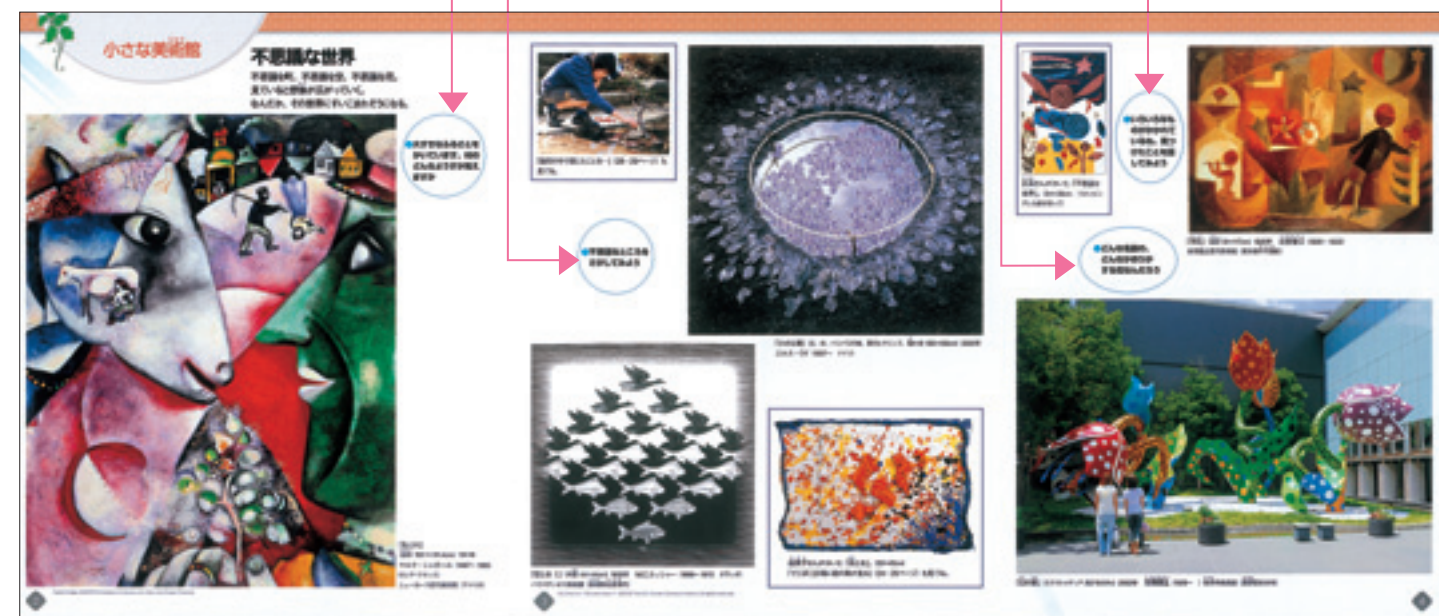
写真を使って見つけたことを集めたり、発表し合ったりする鑑賞の題材です。



▲5・6年下p.22・23「瞬間コレクション」

取り組みやすい鑑賞題材を提案しています。子どもたちが親しみを覚えるような作家作品を大きく掲載することで、学校内でも充実した鑑賞の活動ができます。

●「小さな美術館」では、折り込み3ページに大きな図版を掲載し、鑑賞の手立てとしての問いかけを設定しました。



鑑賞の手立てとしての問いかけ

▲5・6年上p.2～4「小さな美術館」

●作品の飾り方・展示の工夫を例示しました。表現活動から鑑賞活動へ無理なく入ることができます。



▲3・4年上p.37「みんなのゆめが広がって」



▲3・4年下p.37「ゆめいろらんぷ」

地域や伝統文化に 目を向けます

さまざまな地域の伝統文化や材料
などを積極的に取り上げています。

●大切に守られてきた伝統文化や、さまざまな地域の暮らしの中の造形に目を向けるような工夫をしています。



▲5・6年上p.39「みんなのギャラリー」



▲5・6年上p.40
「みんなのギャラリー」



▲1・2年上p.39「みんなのギャラリー」



▲5・6年下p.20「墨のうた」



▲5・6年上p.35
「線を集めて」

◎新学習指導要領の「伝統文化の重視」に対応しています。

●地域や季節にあわせた扱いやすい材料を提示しています。



▲3・4年上p.21「いつもの場所で…」



▲1・2年下p.25「ちぎゅうからのおくりもので」

発達の段階に 配慮しています

発達の段階に応じた題材を提案し、
中学校美術への移行を容易にします。

小学校
図画工作

●造形遊びから芸術家のまなざしへ



▲1・2年上p.10
「しぜんとなかよし」



▲5・6年上p.28
「自然の中で感じたことを…」

●発見のたのしさが、表現の喜びへ



▲1・2年下p.28
「うつつて見つけて」



▲3・4年下p.18
「絵の具で遊んで『自分いろがみ』」

●自分から他者へ、そして学校をとびだして社会へ



▲1・2年上p.16
「うきうきボックス」



▲5・6年下p.34
「わたしはデザイナー」

中学校
美術

体全体で感じる造形遊びの活動が中学校での
表現や鑑賞の活動に生きてきます。



▲中学校 美術2・3年下p.18・19
「自然をキャンパスに」

自分らしさの発見が、中学校や将来にわたって、
表現し続ける喜びにつながります。



▲中学校 美術1年p.16・17「広がる形や色」

自分らしく表現する喜びが、相互理解を生み、
社会へのまなざしを育てます。



▲中学校 美術1年p.36・37
「感動・発見美術館」

たのしく安全に学べるようなさまざまな工夫で、子どもたちが主体的に学ぶ力がつきます。

- 「ひらめきコーナー」では、授業時数外の紙工作を全学年に載せ、学級活動や家庭学習などに生かせるようにしました。



▲5・6年上p.18・19「ひらめきコーナー」

- 学習の内容に関連したコラムを適宜設け、伝統文化や中学校技術科との関連などを学べるようにしました。



▲5・6年下p.15
「強くてやさしい組み木パズル」



▲5・6年下p.17「動き出すストーリー」

◎新学習指導要領の「小・中連携」に対応しています。

- 「外国の友だち」の絵を各学年に掲載し、多様な表現に出会えるようにしました。



▲3・4年下p.15
「木々を見つめて」

◎新学習指導要領の「国際理解」に対応しています。

- 間伐材を扱い、環境問題に目を向けるような題材を取り入れています。



▲5・6年上p.35「線を集めて」

- 安全や後片付けなど、配慮すべき点をわかりやすく具体的に示しました。



▲3・4年上p.41～43

▲1・2年下p.41～43「道具箱・パレットコーナー」

- デジタルカメラやコンピュータなどの今日的な課題であるIT機器も、学校の設備状況などを考慮しながら取り上げています。



コンピュータで形や色をくふうして、シールをつくったよ。

1まいはがしてシール帳にはってね。

◎新学習指導要領の「IT機器の活用」に対応しています。



▲3・4年上p.32「だんだんだんボール」



▲1・2年上p.35「おおきなかみでわっくわく」



大きな木の幹に不思議なあなを見つけた！
▲5・6年上p.6
「おもしろいものやすてきなものを見つけて、カメラで写してみよう」

▲3・4年上 裏表紙「つながる造形」

使いやすい 目次です

題材内容、主な用具・材料などが一目でわかり、見通しをもって計画が立てられます。

もくじ

は、どちらかを選択できるようにしています。

小さな美術鑑賞 2~4
ゆめをかたちに 6~7

▼ 主な「用具・材料」です

季節を感じて 8~9 画	木製の用具、紙の紙、画用紙
ねん土に自分の気持ちをかこめて 10~11 画	ねん土、ねん土ペーパー、ねん土
あのこのドライブ 12~13 画	輪軸ののこぎり、紙や折り紙、紙、木工用鋸、紙の紙
めがせ、ローラーの達人 14~15 画	ローラー、紙の紙、紙の紙、画用紙
同じもの、たくさん 16 画	学校にたくさんある用具
流れる風をつかまえて 17 画	はさみ、テープ、うすい紙
ひらめきコーナー 18~19	
見つけたことを話してみよう 20~21 画	筆記用具
「そのぼ」くん登場 22~23 画	カメラ、コンピュータ、プリンタ、木製の用具、紙の紙、画用紙、紙の紙
まごぼこ広場に絵の具が走る 24~25 画	輪軸ののこぎり、筆、ねん土、紙、だんご、紙の紙、紙の紙
くるくる回して 26~27 画	ペン、はりがね、おきね、ストロー、色紙、紙の紙
自然の中で感じたことを 28~29 画	葉っぱやえだなど自然の材料、口も
葉っぱの美、発見 29 画	木製の用具、紙の紙、画用紙
重なり、だれが前、どっちが後ろ! 30 画	えん紙、色えん紙、カラーペン、画用紙
そのときを形に 31 画	ペン、はりがね、アルミホイル
色を重ねて、ゆめを広げて 32~33 画	輪軸ののこぎり、テープ、インク、画用紙
ビー玉、大ぼうけん 34 画	輪軸ののこぎり、紙、紙の紙、紙の紙
線を繋いで 35 画	はさみ、おがき、目打ち、紙テープ、紙の紙、ボール
伝えたい気持ちを箱につめて 36~37 画	はさみ、おがき、色紙、紙の紙
みんなのギャラリー 38~40	画/材料や場所、かんまようをもとにした活動、画/紙、
道具箱/レポートコーナー 41~43	画/生活、画/工作、画/言葉の内容を載せています。

図画工作で大切にしたいこと

図画工作で育つ力を大きく三つのめあてとしてあげ、それぞれ3種類のマークに表しました。題材名の上のマークは、その題材でいちばん大切にしたいめあてです。

- ためしたり、見つけたりする (考える・くふうする力)
- 形や色、方法や材料について知る (見る・かく・つくる力)
- 心を開いて、まだものを知り、材料保護をする (たのしくかかわり合う力)

5 本文中の ● は、授業の力が働いているようすを、□ は、ふりかえりを示しています。

用具・材料の明示

授業で使う主な用具・材料がすぐにわかります。

領域内容の明示

学習指導要領に即した領域内容がわかります。

選択題材の設定

地域や学校の実情、児童の実態に応じて、題材を選択することができます。

めあての明示

各題材の一番大切にしたい「めあて」がわかります。

◀5・6年上p.5「もくじ」



目次と本文を広げると、
題材の内容や
主な用具・材料などを
対応させながら
見るができます。

題材系統表

学習指導要領の趣旨にそって、図画工作科を通して、子どもたちに何を教え、何を培い育てるのかを明確にしました。











○数字はページ数を示しています。








題材は、全学年を通して「分野・領域」ごとに、ねらいや使用材料などを考慮し、系統的にバランスよく配列されています

学習指導要領との関連		学 年	第1・2学年（上）	第1・2学年（下）	第3・4学年（上）	第3・4学年（下）	第5・6学年（上）	第5・6学年（下）	
A 表現	(1) 造形遊び	①自然材料にかかわる活動	♡ しぜんとなかよし 10	♡ 「土」ってきもちがいい 12 ♡ ちきゅうからの おくりもので 24 25	◎ いつもの場所で… 20 21		♡ 自然の中で感じたことを… 28 29		
		②加工材料にかかわる活動	◎ ふわふわ ポンポン 15 ♡ おおきな かみで わっくわく 35	♡ ほわほわ むくむく 13 ♡ ぎって、ひねって、つなげると 32	◎ だんだんだんボール 32	◎ だんボール、切って、つないで 31	◎ 同じもの、たくさん 16	◎ 白い物語 32	
		③造形的な操作にかかわる活動	◎ ならべて ひろげて 22 ◎ うつして あそぼう 28 29	◎ いろいろ いろいろ 16	◎ 長——い紙、つくって 10	◎ みんなでどんだん、むすんでつないで 16 ◎ いい場所見つけてかこんでみたら 22 23	◎ 流れる風をつかまえて 17	◎ おどる光、遊ぶかげ 29	
	(2) 絵に表す	①形や色、材質や触覚感などにかかわる題材	◎ はる はる おはながみの え 17 ♡ クルクル ぐるーり 20 ♡ てでさわって かくの きもちいい! 21	♡ えのぐじま 11 ◎ キラキラシャボンで 34 ◎ ぼかしあそびで 35	♡ 絵の具と水のハーモニー 8 9 ◎ しょうかいします、わたしのだいすき 25	♡ 絵の具で遊んで「自分いろいろ」 8 9	♡ 絵の具で遊んで「自分いろいろ」 8 9 ◎ でこぼこ広場に絵の具が走る 24 25	♡ 感じたままに花 8 9 ♡ 墨のうた 20 21	
		②観察や経験にかかわる題材	♡ すきなものの いっぱい 8 9 ◎ えがおつうしん にっこりニュース 34	◎ すきなこと なあに 8 9 ◎ どうぶつさんとわたし 22	◎ わたしの休み時間 12	◎ 木々を見つめて 14 15	◎ 季節を感じて 8 9 ♡ 葉っぱの美、発見 29	◎ わたしのお気に入りの場所 10 11	
		③デザイン・装飾的な表現方法にかかわる題材	♡ つたえよう、わたしの すきな かたちいろいろ 26		◎ ようこそ、キラキラのせかいへ 22			◎ はさみと紙のハーモニー 31	
		④言葉やお話から想像したり発想したりする題材	◎ できたらいいな、こんなこと 24	♡ ゆめの ぼうけんものがたり 14	◎ ふしぎなのりもの 34 35	◎ まほうの力をもつ時計 24 25	◎ 「そのぼ」くん登場 22 23	◎ 「窓」のむこうは… 24 25	
		⑤伝え合うことから発想する題材		♡ ひらいて 見てね、わたしの えてがみ 26		♡ ハッピーカード 34 35 ◎ くるっと回って、ごきげんいかが 36			
		⑥仕組みや造形的操作、遊びなどから発想する題材	◎ ともだちをつくろう 30 31	◎ あつまれ、おなじ かたち いっぱい! 30	◎ まんがでゴー! 30 31	◎ ぎゅうぎゅうにつめこむと! 30	◎ 重なると、だれが前、どっちが後ろ! 30	◎ いろいろな見方で! 30	
		⑦版に表す題材	◎ うつして あそぼう 28 29	◎ うつして 見つけて 28 29	◎ はんで広げたゆめ 28 29	◎ ほると出てくるふしぎな花 28 29	◎ 色を重ねて、ゆめを広げて 32 33	◎ うつして見つけたわたしの世界 26 27	
	(2) 立体に表す	①粘土による立体題材	◎ みてみて、いっぱい つくったよ 12 13	◎ ひみつの グアナコ 20 21	◎ ひみつのねん土王国 14 15	◎ リズムにのって 10 11	◎ ねん土に自分の気持ちをこめて 10 11	◎ 切ったねん土の切り口から 12 13	
		②雑材による立体題材	◎ どうぶつむらの ピクニック 23	◎ くいしんぼうの なかまたち 33	◎ くつ下や手ぶくろにまほうをかけると 26	◎ 願いの種から 32 33	◎ そのときを形に 31	◎ 白の世界 33	
		(2) 工作に表す	①遊びや生活に使うものをつくる題材	◎ うきうきボックス 16	◎ マグネット・マスコット 10 ◎ ふかふか ゆらゆら 17	◎ カラフルねん土のお店へようこそ 11 ◎ タイヤをつけて出発進行!! 13	◎ つくって、つかって、たのしんで 26 27	◎ ビー玉、大ぼうけん 34	◎ 強くてやさしい組み木パズル 14 15 ◎ わたしはデザイナー 12さいの力で 34 35
			②飾りものをつくる題材	◎ ひかりのくにの なかまたち 11 ◎ チョッキン パッで かざろう 14	◎ ゆらゆら ウキウキ 15 ◎ あきを ならべて いいかんじ 27	◎ 光と色のファンタジー 17 ◎ ふわふわさんのかざり 27	♡ ゆめいらんぶ 37	◎ 線を集めて 35	◎ 布と枝のコンサート 28
			③伝え合うものをつくる題材					♡ 伝えたい気持ちを箱につめて 36 37	♡ 伝え方をたのしもう 36 37
			④想像したものをつくる題材	◎ くしゃくしゃがみから うまれたよ 27 ◎ ゆめの まち さんちようめ 32 33	◎ かみを 立てた かたちから 31	◎ 小さなこのものがたり 16 ♡ くぎうちトントン 24	♡ ギコギコ、コロコロ、たのしいなかま 12 13	◎ 糸のこのドライブ 12 13	
	⑤仕組みを使ってつくる題材	◎ おさんぽ トコトコ 25	◎ コロコロ大さくせん! 23	◎ パタパタわにさん、クロールにちょうせん 33	◎ パックパク 20 21	◎ くるくる回して 26 27	◎ 動き出すストーリー 16 17		
	⑥総合的なかかわり合いの内容とする題材	♡ こころを こめて プレゼント 36 37	♡ ピコリンせいの カラフルパーティー 36 37	♡ みんなのゆめが広がって 36 37	(♡ ゆめいらんぶ 37)	(♡ 伝えたい気持ちを箱につめて 36 37)	(♡ 伝え方をたのしもう 36 37)		
B 鑑賞		(◎ うつして あそぼう 28 29)	(◎ うつして 見つけて 28 29)	♡ タッチ、キャッチ、さわりごこち 23	♡ カードで味わう、形・色 17	♡ 見つけたことを話してみよう 20 21	♡ 瞬間コレクション 22 23		
特設ページなど		②～④ ちいさな びじゅつかん ⑥⑦ ゆめを かたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 どうぐばこ/パレットコーナー 裏表紙 つながる ぞうけい	②～④ 小さな びじゅつかん ⑥⑦ ゆめを かたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 どうぐばこ/パレットコーナー 裏表紙 つながる ぞうけい	②～④ 小さなびじゅつかん ⑥⑦ ゆめをかたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 道具箱/パレットコーナー 裏表紙 つながる 造形	②～④ 小さな美じゅつかん ⑥⑦ ゆめをかたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 道具箱/パレットコーナー 裏表紙 つながる 造形	②～④ 小さな美術館 ⑥⑦ ゆめをかたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 道具箱/パレットコーナー 裏表紙 つながる 造形	②～④ 小さな美術館 ⑥⑦ ゆめをかたちに 18 19 ひらめきコーナー 38～40 みんなの ギャラリー 41～43 道具箱/パレットコーナー 裏表紙 つながる 造形		

観点別・編集の特色

子どもの心に語りかけ、 子どもの未来に思いをはせて…

主な観点	編集上の特色
(1) 学習指導要領の「目標」「内容」等への対応は—	<p>◎〈主体性と共感〉 平成23年度用図画工作教科書においては、教育基本法、学校教育法に示された義務教育の目標の達成を大きな枠組みに据え、新学習指導要領における図画工作科の「目標」である「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」を編集の基盤に置き、編集の基本方針を「発達の段階に応じて系統的に構築した題材内容とともに、授業の課題やめあて、授業の内容や方法、培いたい資質や能力を明確に整理して具体的に紙面に示し、教科の目標を達成することを旨とする」としました。</p> <p>また児童にとっては、見やすく、わかりやすく、魅力的な紙面で学びやすくすると同時に、活動の見直しと振り返りを示すことで、児童の自立を促し、「造形をととした人間教育」の実現を図ることを心がけました。</p> <p>◎〈「つくり出す喜び」〉 学習指導要領の目標が、表現や鑑賞の幅広い活動をとおして、子どもたちがつくり出す喜びを味わうことを重視していることへの対応として、ものをつくり出す喜びや表現するたのしさを子どもたちにメッセージしました。</p> <p>全学年 p.6・7の「ゆめをかたちに」は、子どもたち一人一人がそれぞれの思いや願い、夢の実現に向けて生きてほしいという、図画工作科としてのエールを送る意図をもつものです。ものをつくり出す喜びや表現するたのしさを味わう体験は、ものと人との関係をつくり出すことや、新たな発想や意味をつくり出すことへの関心や意欲、つくり出す感覚や実現への満足感など、自分らしく「生きる」基盤となるものであるはずです。</p> <p>◎〈精選された構造〉 図画工作科の目標を達成するために、図画工作で大切にしたいことや育てたい力を「学習のめあて」として大きく三つにくくって題材名の上に明示すると同時に、児童の自己評価をページの最後に設置し、題材の目標と学びの関連を明確にしました（本冊子 p.5～7参照）。</p> <p>これら「三つのめあて(育てたい力)」は、教科書 p.5の「もくじ」に、子どもたちにもわかりやすい言葉で、活動の大きな目標・めやすとして、それぞれ三つのマークで示しました。</p> <p>：ためしたり、見つけたりする（考える・くふうする力）。 ※試したり見つけたりしながら自分らしい造形的な表現の追求と発見をする活動。</p> <p>：形や色、方法や材料について知る（見る・かく・つくる力）。 ※形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動。</p> <p>：心を開いて、友だちのことを知り、材料体験をする（たのしくかかわり合う力）。 ※心を開き、材料や自分自身、友だちなどかかわり合うよさを知る活動。</p> <p>さらに、各題材ページには、それぞれの学習のねらいを理解しやすくするために、「学習の目標」を明確に示しました。この「学習の目標」は、「三つのめあて(育てたい力)」を受けて、具体的な授業から導き出された題材の目標と活動の内容をまとめたものです。これにより、教科書すべての題材が有機的・系統的に位置づけられています。</p> <p>なお、ページ最後に設置した児童の自己評価・振り返りは、題材の学習のめあてを受けた内容とし、児童がめあてにそった自分の学びを確認する際の視点を示すことで、「学習のめあて」と「評価」の関連を明確にしました。</p> <p>◎〈題材内容の系統化〉 学習指導要領の表現および鑑賞領域の内容構成ごとに、系統性をもたせてバランスよく配列しました。また、全学年 p.5の「もくじ」には、題材名とページ番号だけを示すのではなく、学習指導要領に示された領域内容を考慮し、主となる活動内容をそれぞれマークで示しました。</p> <p>A表現(1)の内容については「」とし、A表現(2)については、「」や「」に表す内容のうち主なものを抽出し、それぞれ「」や「」「」としました。また、B鑑賞に該当する内容については「」としました。</p> <p>上記の構造から全学年の題材内容を系統的に位置づけました（本冊子 p.23・24参照）。</p>
(2) 学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」への対応は—	<p>◎〈題材の精選〉 学習指導要領の「内容」が2学年まとめて示されていることをふまえ、表紙において「上」「下」巻という表示を行うことはもとより、子どもたちの発達段階をふまえ、題材を子どもの資質や能力の育成という観点から精選し、子どもたちが生き生きと取り組めるような題材を設定しました。</p> <p>また、2学年まとめて示された「内容」の具体化にあたっては、初めの学年において取り上げる内容の程度が高くないように配慮しました。さらに、低学年で培った造形能力や関心・意欲・態度が、中・高学年へと段階的に移行・発展するように配慮しました。</p>

主な観点	編集上の特色
	<p>◎〈年間授業時間数と年間指導計画〉 中・高学年において年間授業時間数が削減されていることをふまえ、内容の整理統合の観点から、子どもたちが持てる力を十分に発揮できるような題材の精選を行うとともに、第1～3学年では現行本の題材数を確保しましたが、第4～6学年においては現行本よりもそれぞれ4題材ずつ減らしました。また、子どもたちの実態や地域・各学校の特性を生かした指導計画の編成がしやすいように、選択題材を設定することで対応しました。</p> <p>【例】〈選択題材数〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年  ……1題材、1・2年  ……2題材 ・3・4年  ……0題材、3・4年  ……1題材 ・5・6年  ……4題材、5・6年  ……4題材 <p>◎〈鑑賞活動の重視〉</p> <p>「『B鑑賞』の指導については、『A表現』との関連を図るようにすること。」をふまえ、鑑賞題材については子どもたちの実態に合わせた内容を新たに開発し、すべての学年に設定しました。そして鑑賞活動は、表現活動と関連して扱うことを基本としました。</p> <p>鑑賞活動が中心となる題材や学習には、題材の紙面に直接、「鑑賞」あるいは「かんしょう」と明示し、読み取りやすい紙面づくりを心がけました。また、児童が感じたことや想像したことなどを造形的に表す「表現」と、作品などからそのよさや美しさを感じ取り、見方を深める「鑑賞」の二つの活動が相互に補い合って高まっていくことを示すために、「鑑賞」が中心的な学習である題材においても、表現の要素を必ず入れるように配慮しました。また、表現題材においても、鑑賞の力が働いている場面を  マークで示しました。</p> <p>また、全学年のトップページ（p.2～4）の「小さな美術館」は、発達段階に応じたテーマを設け、絵画や立体、イラストレーションなど、幅広いジャンルから作品を取り上げ、児童作品とともに掲載しました。表現することのたのしさやおもしろさに気づく心を大切にしてほしいとの願いをこめています。</p> <p>◎〈地域の美術館などの利用・連携〉</p> <p>「『B鑑賞』の指導にあたっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。」をふまえ、各地の美術館などでの取り組みを「みんなのギャラリー」（全学年 p.38～40）として扱いました。その際、美術館だけではなく、それぞれの地域に密着した形で行われている行事やお祭り、伝統工芸などと合わせたような取り組みを、「みんなでいっしょに」「教室を飛び出して」「日本の祭り」「伝統の技を学ぶ」などのテーマで紹介することにより、児童が自分たちの住む地域に目を向け、身近な地域の中から児童や学校の実態に応じて活動できるように配慮しました。</p> <p>◎〈他教科や幼稚園教育との関連、中学校への橋渡し〉 他教科との関連を一層進めることが示されていることをふまえ、低学年においては、生活科との関連を図るとともに、身体性を伴う造形活動や、身近な自然や友だちなどのかかわり合いを大切にす題材を多く設定し、幼稚園・保育園での体験をもとに活動が展開できるように工夫しました。</p> <p>また、中・高学年においては「総合的な学習の時間」などとの関連を視野に入れて、上記「みんなのギャラリー」全学年 p.38～40）では各地の行事や国際理解の一端を紹介しました。</p> <p>さらに、高学年においては、中学校「美術」への橋渡しを視野に入れ、水墨画の実践や鑑賞（5・6年下 p.20・21「墨のうた」）、屏風絵の鑑賞（5・6年下 p.2・3「小さな美術館」）、浮世絵の鑑賞（5・6年上 p.20・21「見つけたことを話してみよう」）、形や色のとらえ方の学習内容（5・6年下「パレットコーナー」）などを設定しました。</p> <p>◎〈版に表す経験や焼成する経験〉 「児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。」をふまえ、発達段階に応じて版に表す経験ができる題材と焼成する経験ができる題材を、全学年にわたって網羅しました。</p>
基礎的・基本的事項の扱いは—	<p>◎〈体験的・発見的に〉 各学年で習得しておくべき基礎的・基本的事項を図解や写真でわかりやすく示しましたが、指示的に陥らぬよう、子どもたちの表現に即しながら創造的に習得できるように配慮しました。</p> <p>◎〈「道具箱」「パレットコーナー」に〉 子どもたちが図画工作科の活動で使う道具を発達段階に即して取り上げ、その安全で正しい使い方、効果的な使い方などを、全学年 p.40・41の「道具箱」にまとめて掲載しました。また、形と色については全学年 p.41・42に「パレットコーナー」として、発達段階に応じた内容をまとめて示しました。系統的に配列されたこの内容によって、表現への意欲と技能を自主的に高めていけるようにしました。</p>
指導の効率化は—	<p>◎〈地域性への配慮〉 地域によって学習差が生じないように、題材・材料・用具などを十分考慮しながら、地域の特性が発揮できるように心がけました。</p> <p>【例】1・2年下 p.24・25「ちきゅうからのおくりもので」 3・4年上 p.20・21「いつもの場所です」 5・6年下 p.10・11「わたしのお気に入りの場所」</p>
児童の共感を呼ぶか—	<p>◎〈視覚から心へ〉 子どもたちの制作・活動情景写真やイラストレーションを豊富に使い、各題材ページのレイアウトを工夫して、表現意欲を呼び起こすことを心がけました。また、題材と子どもたちとの出会わせ方を工夫し、指示的な導入から再現的な活動を押しつけることを極力避け、子どもたち一人一人が自主的・主体的に活動にかかわって創造活動が展開できるようにしました。</p> <p>◎〈文章から心へ〉 題材名・主文・解説文など、すべての文章を一新し、学習内容をイメージしやすく、しかもリズムとテンポのある表現で展開しました。</p>

主な観点		編集上の特色
編成度	題材の魅力は—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈意外性と新鮮さ〉 指示的・再現的表現に陥ることからの克服を基底に置き、現代に生きる子どもたちの感性を呼び起こす題材の開発に心がけました。 ◎〈生活から造形へ〉 「遊びから造形へ」、そして「造形から遊び（生活）へ」を意図し、図画工作科学習が子どもの生活へと移行し、発展するような題材を精選しました。
	教材の系統性への配慮は—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈積み重ねと転移〉 選りすぐった題材を網羅するとともに、各学年の発達段階に対応した系統性を、心情・技法・関心・意欲の視点で構築し、有効な積み重ねと移行が図れるように意図しました。 <p>[例] <観察や経験にかかわる絵画題材の系統></p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2年上 p.8・9 「すきなもののいっぱい」 1・2年下 p.8・9 「すきなことなあに」 3・4年上 p.12 「わたしの休み時間」 3・4年下 p.14・15 「木々を見つめて」 5・6年上 p.8・9 「季節を感じて」 5・6年下 p.10・11 「わたしのお気に入りの場所」
	内容の配列や順序性の工夫は—	◎〈実践的配列〉 「自分の考えや感じ方を大切に表現の追及」をテーマに、全学年とも年間指導計画にそった、いわゆる「カリキュラム順」の題材配列にしました。やさしいものから、より難しいものへと、難易度を考慮して順序性を整えました。また、子どもたちの実態や地域、各学校の特性を生かした指導計画の編成がしやすいように、選択題材を随時、設定して対応しました。
	内容の分量は適切か—	◎〈軽重のバランス〉 低・中・高学年に応じて、題材の内容と分量を整備しました。学習指導要領に示されている年間授業時数をふまえ、題材の軽重のバランスを整えました。
表現の工夫	文章表現は—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈題材名〉 活動内容の事実を紋切り型に表示することから脱却し、子どもの心に響き、しかも内容が豊かにイメージされるように工夫しました。各学年の発達段階に対応しつつ、新鮮な命名を心がけました。 ◎〈主文〉 子どもの言語感覚を大切に、子どもの心に語りかけ、題材内容や方法をイメージさせて意欲的に課題をつかみ取れるように練り上げました。 ◎〈解説文〉 個々の作品の解説文（子どものつぶやき）は、全国の実践レポートから子どものなまの声を取材し、心情面から作品理解に役立つように配慮するとともに、作品制作や活動にあたっての材料や技法についての工夫を取り上げることで、教科書に掲載した意図を伝えることを重視しました。
	写真・イラストレーションは—	◎〈視覚的に〉 親しみを増し、イメージをふくらませ、より正確に習得できるように、写真やイラストレーションをおりこみました。とりわけ造形遊びは、視覚的に展開するように考慮しました。制作の手順、材料・用具の使い方、技法の手だてなどは読み取りやすい視点から撮影し、鮮明で、かつ意図が明確なものを厳選しました。
	図解は—	◎〈明確に〉 制作過程図や材料・用具の扱い図など、正確さを必要とするものは子どもの視点に立ち、細心の注意を払うとともに、図解を読み取る能力をつけるために、学年に相応した図を系統的に配置しました。
	レイアウトは—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈明確・斬新に〉 子どもにとって最も身近な美術書としての位置づけをし、全ページとも各題材・内容をより明確にし、しかも感動的に、たのしさが読み取れるように工夫しました。 ◎〈学習の流れとポイント〉 各題材を個性的に展開し、一人一人の子どもが表現活動に見通しを持ち、主体的・自発的・発見的に造形活動が進められるように、文章・図解・情景写真・作品例などを配置しました。
造本・体裁	判型は—	◎〈大判化〉 教科書の判型を、従来のB5判からA B判に大判化しました。これにより、児童作品を大きく効果的に示すことで、児童の関心や意欲を高めると同時に、表現のために必要な情報を増やし、児童が進んで表現や鑑賞活動に取り組めるようにしました。
	印刷は—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈用紙〉 見やすさ、印刷適正の観点から、数多くの用紙を使って試験し、その中から最適のコート紙を厳選しました。また、今日的な環境問題に配慮し、すべて再生紙を使用するとともに、インキは大豆インキを使用しました。 ◎〈鮮明さ〉 作品のもつ微妙なニュアンスや質感などを忠実に再現するために、最新の印刷技術を駆使し、かつ入念な色校正に努めました。
	製本は—	◎〈大判化〉 開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮して、ミシン綴じ、見返し付きとし、表紙はビニール加工することで、長期の使用に耐え得る製本としました。また、裏表紙には、児童の学校名・学年・組・氏名などを記入できる部分を設けるとともに、グラビア印刷することで、記入にあたって、にじみなどができないように工夫しました。
	装丁は—	<ul style="list-style-type: none"> ◎〈表表紙〉 子どもたちの息づかいが聞こえるような児童絵画作品を紙面いっぱいに掲載しましたが、いずれも本文題材において取り上げたテーマの作品としました。また、子どもの心に響く書名をつけることで、図画工作のたのしさを、すばらしさを強く訴えました。書名を形づくっている材料は、いずれも本文題材で取り上げた材料を使用しました。 ◎〈裏表紙〉 全学年とも「つながる造形」をテーマに、子どもたちの身近な場面であうささまざまな事柄が形や色という造形要素でつながっていたり、生かされていたりすることを取り上げました。

1. ページ数 (AB判:天地257×左右210mm)

	1・2年Ⓐ	1・2年Ⓑ	3・4年Ⓐ	3・4年Ⓑ	5・6年Ⓐ	5・6年Ⓑ	合計
(1) 材料や場所などをもとにした造形遊びのページ数	6	6	4	4	4	2	26
(2) 絵に表す活動のページ数	10	11	11	12	11	12	67
(3) 立体に表す活動のページ数	3	3	3	4	3	3	19
(4) 工作に表す活動のページ数	11	10	11	9	10	11	62
(5) 鑑賞活動のページ数	10	10	11	11	12	12	66
(6) 材料や用具の扱いに関する内容のページ数	3	3	3	3	3	3	18
(7) もくじ	1	1	1	1	1	1	6
総ページ数	44	44	44	44	44	44	264

※(4)には、「ひらめきコーナー」(p.18・19)を含める。(5)には、表紙(表・裏)、「小さな美術館」(p.2~4)、「ゆめをかたちに」(p.6・7)、「みんなのギャラリー」(p.38~40)を含める。(6)は、「道具箱」と「パレットコーナー」を配当する。

2. 題材数

	1・2年Ⓐ	1・2年Ⓑ	3・4年Ⓐ	3・4年Ⓑ	5・6年Ⓐ	5・6年Ⓑ	合計
(1) 材料や場所などをもとにした造形遊びの題材数	5	5	3	3	3	2	21
(2) 絵に表す活動の題材数	8	9	7	7	7	6	44
(3) 立体に表す活動の題材数	2	2	2	2	2	2	12
(4) 工作に表す活動の題材数	8	8	9	5	6	6	42
(5) 鑑賞活動の題材数	6	6	6	6	6	6	36
(6) 材料や用具の扱いに関する内容の題材数	2	2	2	2	2	2	12
総題材数	31	32	29	25	26	24	167

※(4)には、「ひらめきコーナー」(p.18・19)を含める。(5)には、表紙(表・裏)、「小さな美術館」(p.2~4)、「ゆめをかたちに」(p.6・7)、「みんなのギャラリー」(p.38~40)を含める。(6)は、「道具箱」と「パレットコーナー」を配当する。

3. 紙面構成の扱い

	1・2年Ⓐ	1・2年Ⓑ	3・4年Ⓐ	3・4年Ⓑ	5・6年Ⓐ	5・6年Ⓑ	合計
(1) 1ページ展開の題材数	19	21	17	9	10	9	85
(2) 2ページ展開の題材数	9	8	10	14	14	14	69
(3) 3ページ展開の題材数	2	2	2	2	2	2	12

4. 作品数など

	1・2年Ⓐ	1・2年Ⓑ	3・4年Ⓐ	3・4年Ⓑ	5・6年Ⓐ	5・6年Ⓑ	合計
(1) 児童作品数	121	109	117	121	110	147	725
(2) 作家作品数							
ア. 日本人作家作品数	6	4	7	13	7	4	41
イ. 外国人作家作品数	1	2	4	4	4	2	17
(3) その他の作品数(文化財・民芸品など)	10	7	9	7	5	8	46
(4) 制作過程・表現技法などの写真や図版							
ア. 写真	145	127	118	115	126	113	744
イ. 図版	31	34	35	36	31	18	185
※半ページ以上にわたる大きさの作品数	7	9	9	6	7	8	46
※安全についての記載箇所数	7	5	6	7	2	1	28

教科書を核として、豊かな教材で充実した授業をバックアップ!

開隆堂の
教材群視聴覚教材
(DVD、掛図、鑑賞資料)

図書教材・教育書

季刊雑誌
(造形ジャーナル)

教師用指導書

教科書

文部科学省刊行物



開隆堂出版株式会社

本社/〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
TEL03-5684-6117(編集)/03-5684-6121(営業) FAX 03-5684-6122
http://www.kairyudo.co.jp